

第 4 部 40歳代・50歳代市民

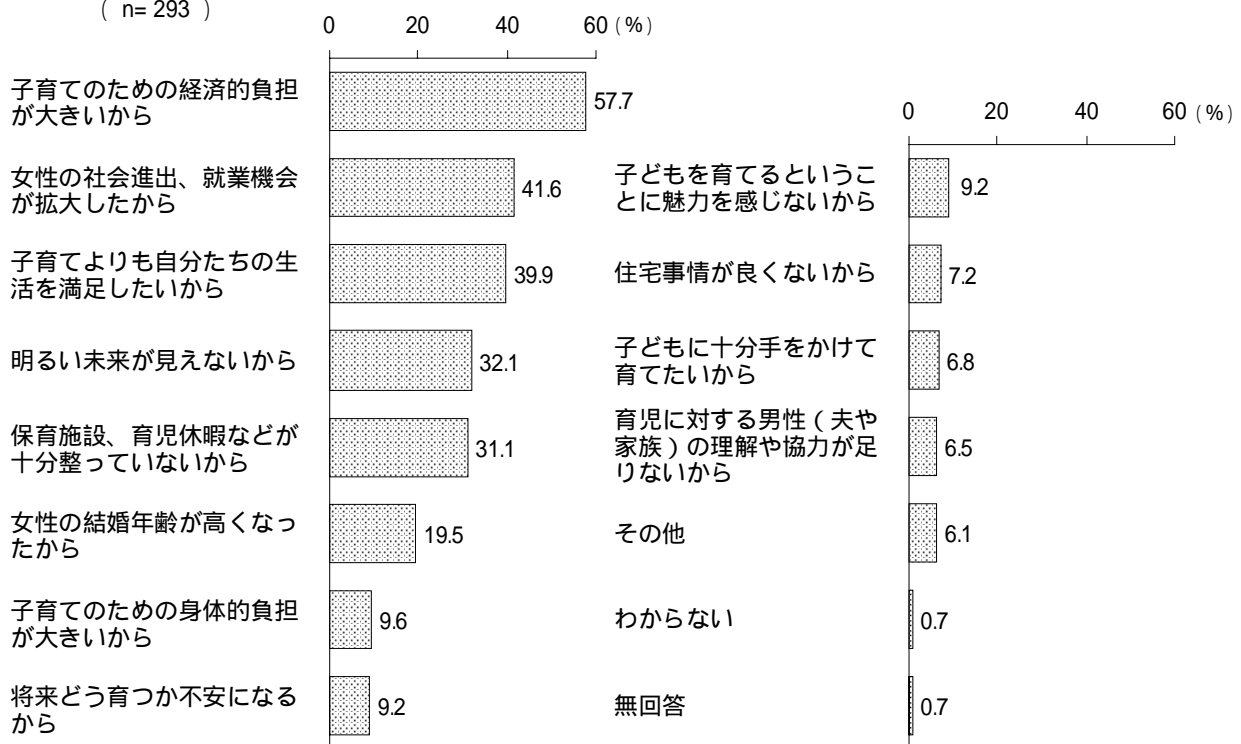
第1章 子育て観

1 - 1 少子化の原因

問8 ここ数年、出生率の低下が進み、社会全体で子どもの数が減少している現状がありますが、少子化については何が原因だと思いますか。(は3つまで)

図1 - 1

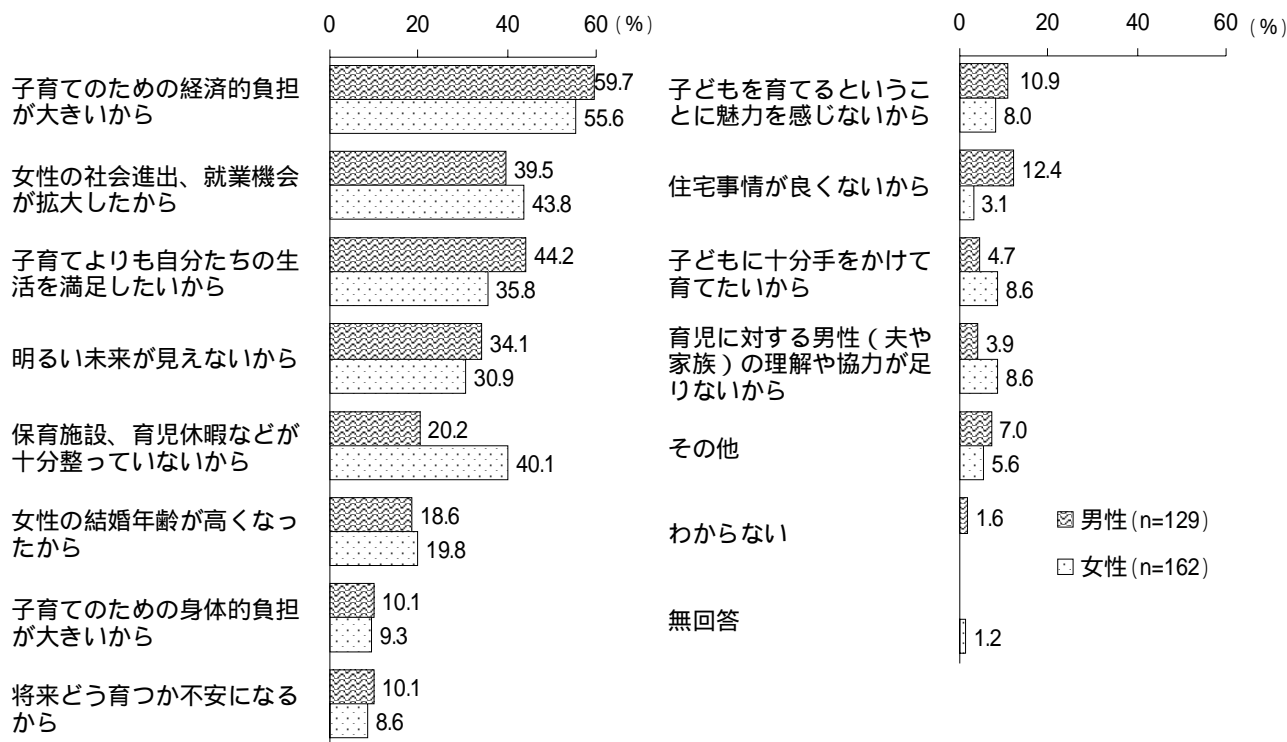
(n= 293)



少子化の原因としては、「子育てのための経済的負担が大きいから」が57.7%で最も多く、以下「女性の社会進出、就業機会が拡大したから」(41.6%)、「子育てよりも自分たちの生活を満足したいから」(39.9%)、「明るい未来が見えないから」(32.1%)、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」(31.1%)の順で続いている。

性別でみると、男性では、「子育てよりも自分たちの生活を満足したいから」が44.2%で、女性（35.8%）を8.4ポイント上回っているのが特徴的である。一方、女性では、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」が40.1%と、男性（20.2%）を倍近く上回っている。また、「子育てのための経済的負担が大きいから」は男性59.7%・女性55.6%と、男女とも最も多くなっている。

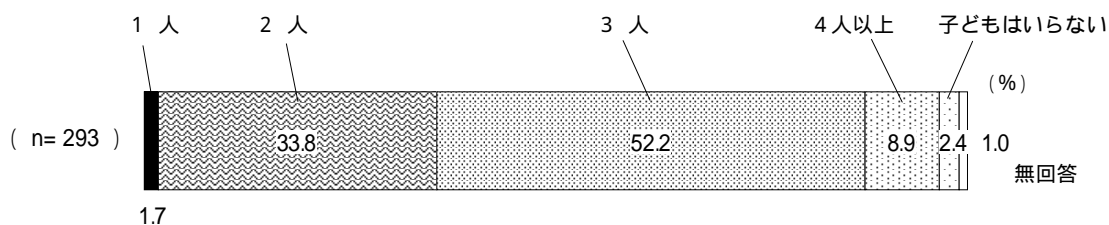
図1 - 2 性別 少子化の原因



1 - 2 理想の子どもの数

問9 現実とは別に、あなたの理想としては何人くらい子どもがいるのがよいと思いますか。
(は1つだけ)

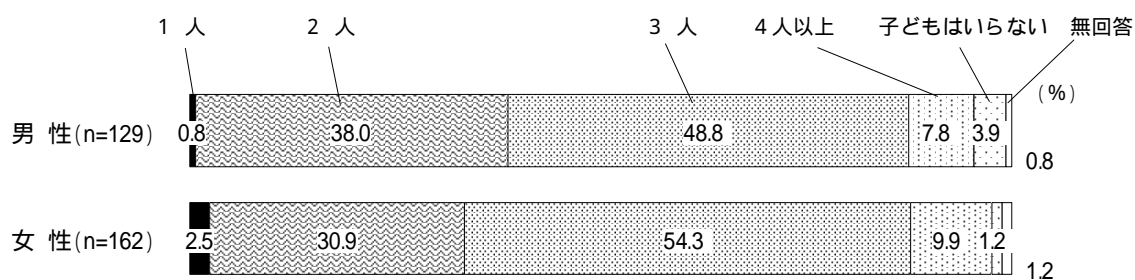
図1 - 3



理想の子どもの数としては「3人」が52.2%と過半数を占め、これに「2人」(33.8%)が次いでいる。

性別でみると、女性では、「3人」が54.3%と、男性(48.8%)より多くなっている。一方、男性では「2人」が38.0%と、女性(30.9%)を7.1ポイント上回っている。

図1 - 4 性別 理想の子どもの数

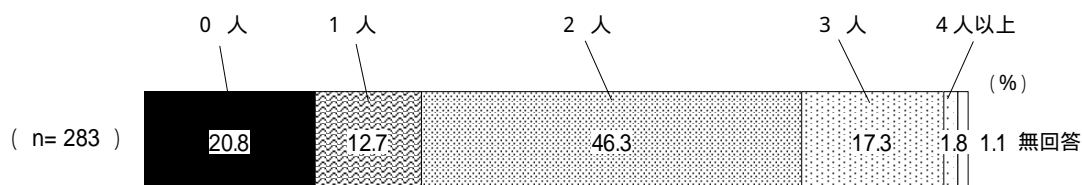


1 - 3 実際の子どもの数

(問9で1～4のいずれかをお答えの方に)

問9 - 1 あなたは、何人のお子さんがいらっしゃいますか。(は1つだけ)

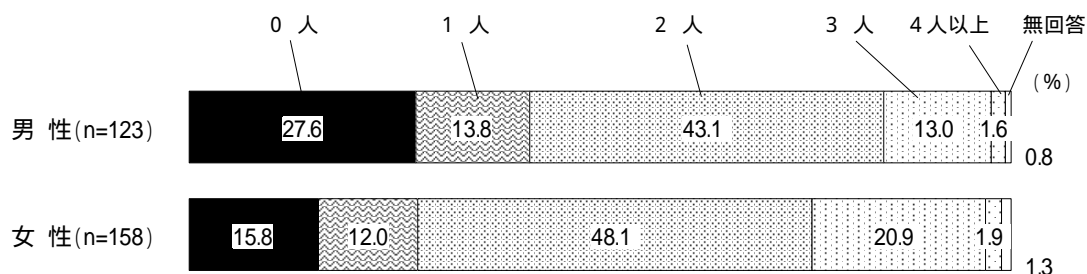
図1 - 5



実際に持つ子ども数としては「2人」(46.3%)が多くなっている。また「0人」という回答も20.8%となっている。一方、「3人」は17.3%となっている。

性別で見ると、「2人」が男性43.1%、女性48.1%と、男女とも多くなっている。また、男性では「0人」という回答が27.6%となっている。

図1 - 6 性別 実際の子どもの数

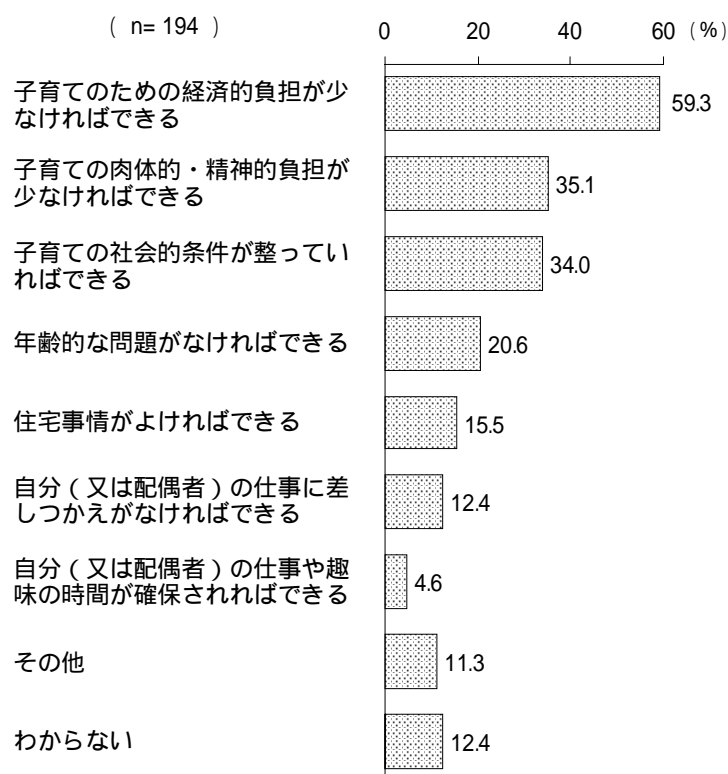


1 - 4 理想より実際の子どもの数が少ない理由

(問9 - 1で理想の子どもの数より少なくなった方におたずねします。)

問9 - 2 どのような条件があれば、理想の子どもの数を生み育てることができると思いますか。(は3つまで)

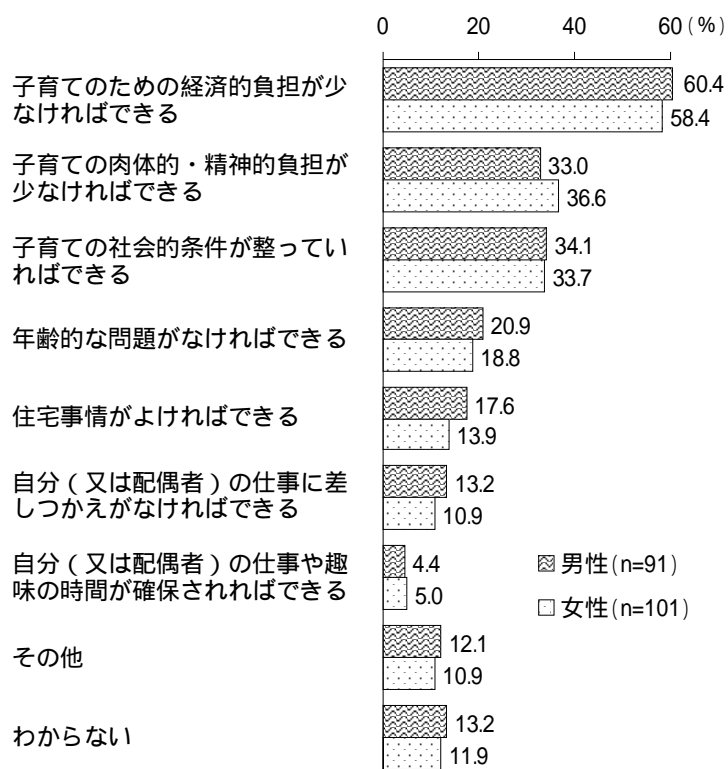
図1 - 7



理想よりも実際の子どもの数が少ない人に、理想に近づく条件をきいたところ、「子育てのための経済的負担が少なければできる」が59.3%で最も多く、これに「子育ての肉体的・精神的負担が少なければできる」(35.1%)と「子育ての社会的条件が整っていればできる」(34.0%)が次いでいる。

性別でも、男女の回答傾向に大きな差は認められない。

図1 - 8 性別 理想より実際の子ども数が少ない理由

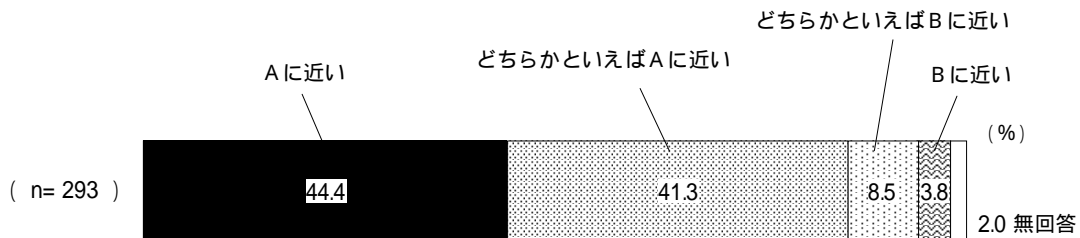


1 - 5 育児期、家庭生活についての考え方

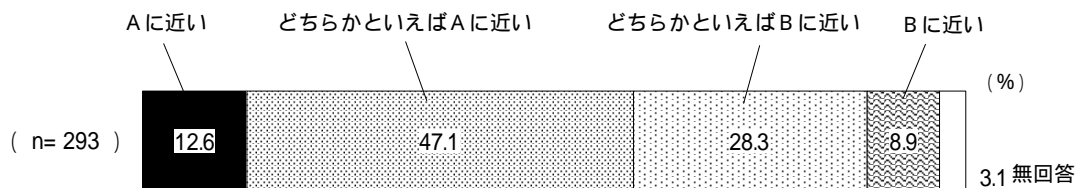
問10 次のAとBのうち、あなたはどちらの考え方に近いですか。(はそれぞれ1つずつ)

図 1 - 9

- A 育児期は子育て中心に考えるべきである
 B 育児期においても個人としての生活を中心に考えるべきである



- A 家庭生活は子ども中心に考えるべきである
 B 家庭生活は親中心に考えるべきである



育児期は子育て中心 に「近い」が44.4%で、これに「どちらかといえば近い」(41.3%)を合せた《近い》が85.7%を占めている。

また、 家庭生活は子ども中心 に「近い」は12.6%で、これに「どちらかといえば近い」(47.1%)を合せた《近い》は59.7%となっている。

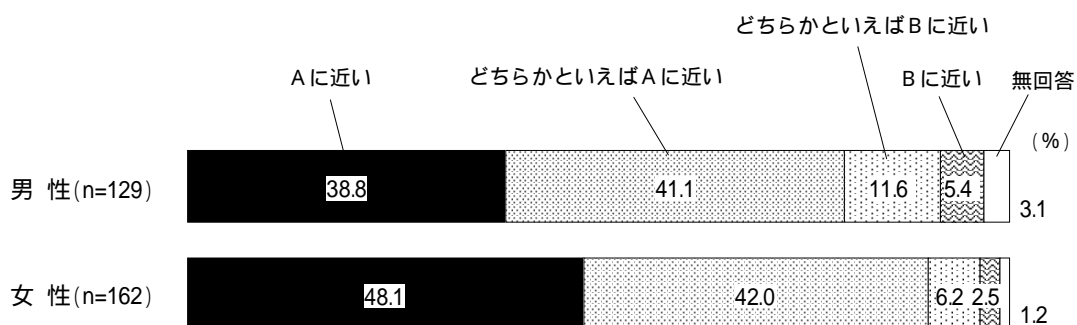
性別でみると、育児期は子育て中心に《近い》は男性79.9%・女性90.1%と、女性が多く、特に「近い」が48.1%となっている。

また、家庭生活は子ども中心に《近い》は男性46.5%・女性70.3%と、女性が圧倒的に多くなっている。

図1 - 10 性別 育児期、家庭生活についての考え方

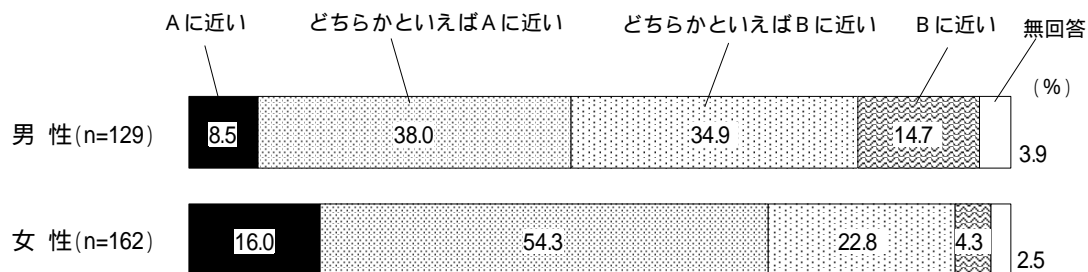
A 育児期は子育て中心に考えるべきである

B 育児期においても個人としての生活を中心に考えるべきである



A 家庭生活は子ども中心に考えるべきである

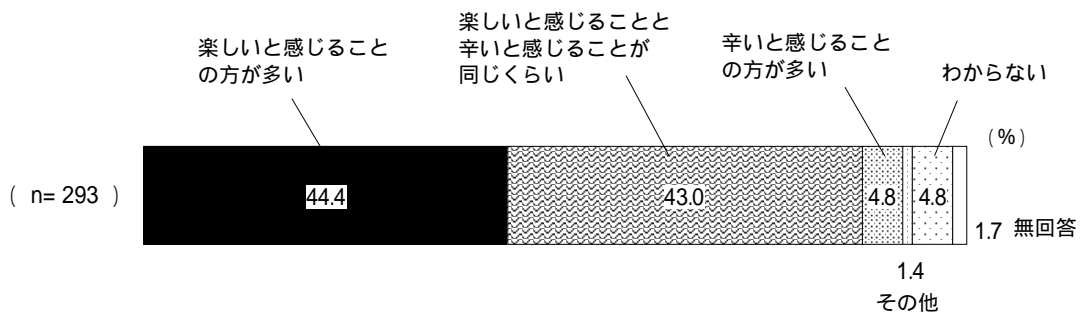
B 家庭生活は親中心に考えるべきである



1 - 6 子育ての感想

問11 あなたは、自分にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか。それとも辛いと感じることが多いと思いますか。お子さんがいらっしゃる方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定してお答えください。(は1つだけ)

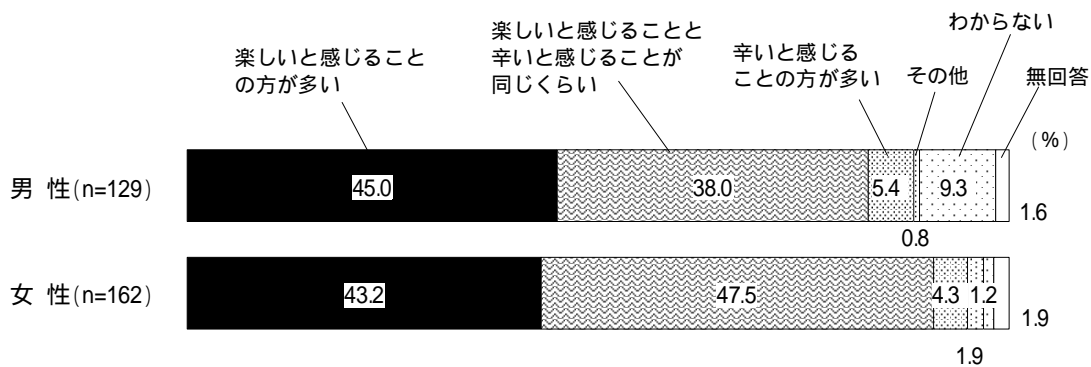
図 1 - 11



子育てについての意識をみると、「楽しいと感じることが多い」が44.4%で最も多く、これに「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」(43.0%)が次いでいる。一方、「辛いと感じることが多い」は4.8%となっている。

性別でみると、女性では「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」が47.5%と、男性(38.0%)を10ポイント近く上回っている。

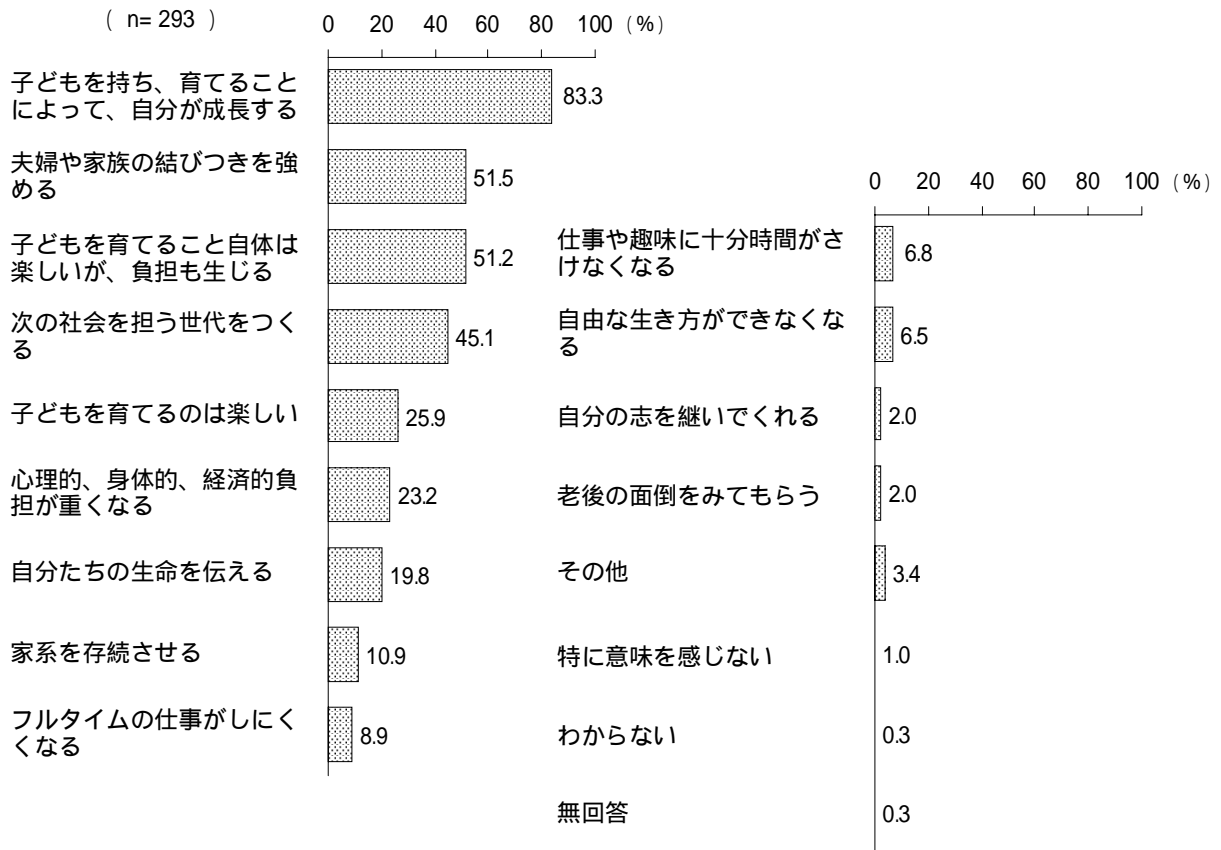
図 1 - 12 性別 子育てへの感想



1 - 7 子どもを生き育てることへの考え

問12 子どもを生き育てることについて、どのようにお考えですか。(は4つまで)

図 1 - 13

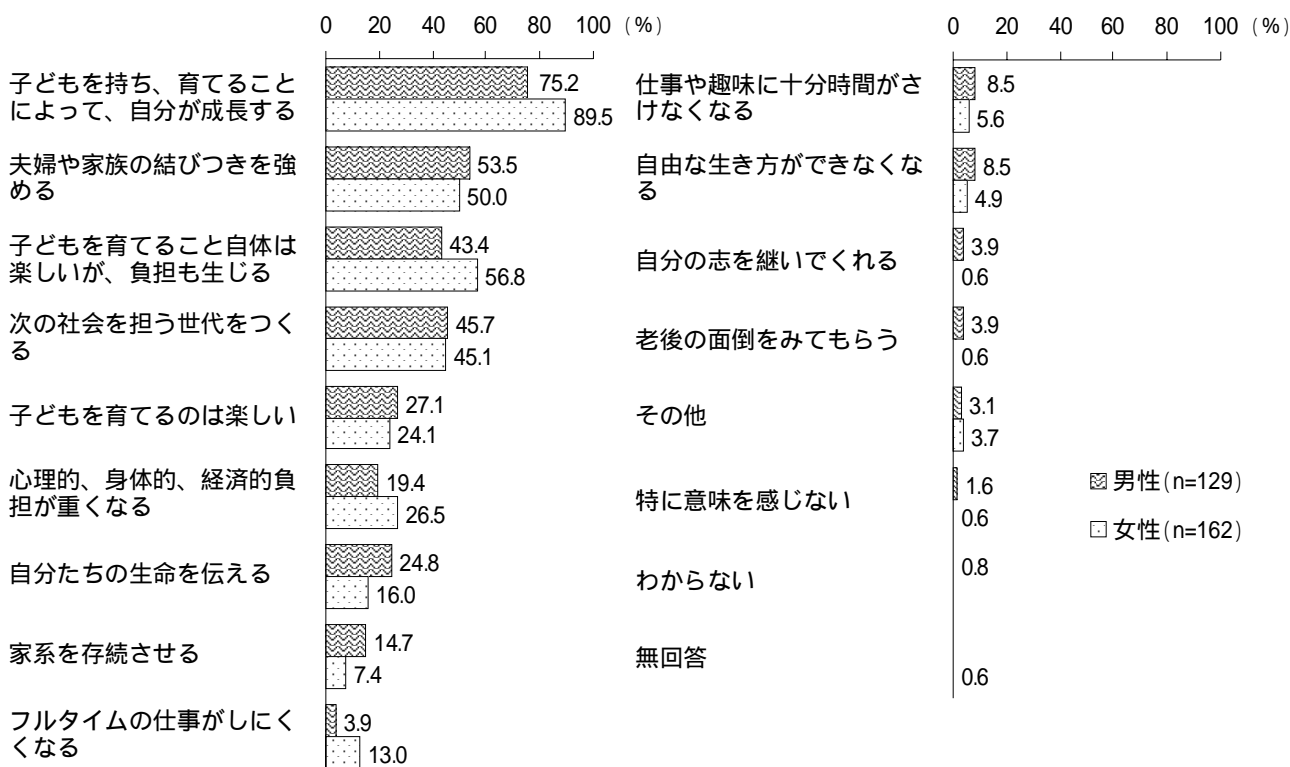


子どもを生き育てることの意味としては、「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」が83.3%と最も多く、「夫婦や家族の結びつきを強める」(51.5%)、「子どもを育てること自体は楽しいが、負担も生じる」(51.2%)、「次の社会を担う世代をつくる」(45.1%)の順で続いている。

性別でみると、男女とも「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」が多くなっており、特に女性では89.5%と9割近くに達している。

また、女性では、「子どもを育てること自体は楽しいが、負担も生じる」が56.8%と、男性(43.4%)を13.4ポイント上回っているほか、「心理的、身体的、経済的負担が重くなる」(26.5%)という回答も男性より多く、子育ての負担を意識した回答傾向になっている。

図1 - 14 性別 子どもを生み育てることへの考え

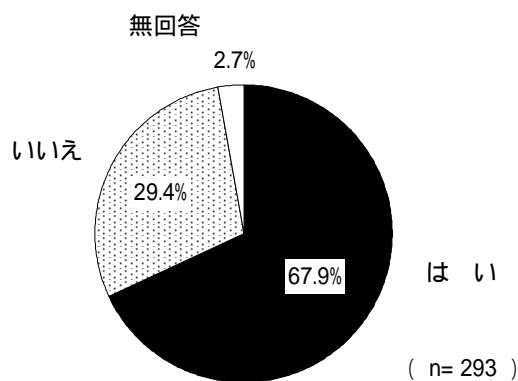


第2章 地域の子どもたちに対する考え方や接し方

2 - 1 地域の子育て支援についての協力

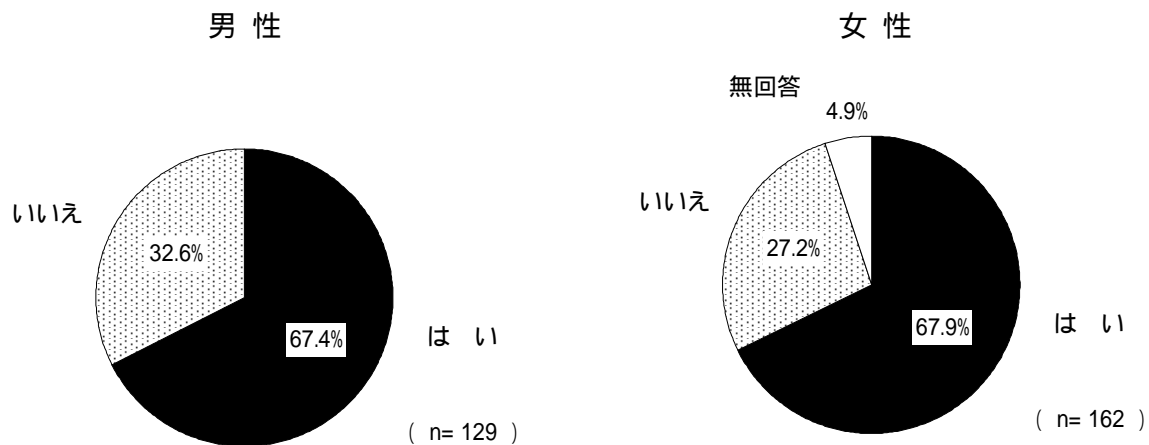
問13 あなたは、地域の子育て支援について、協力したいと思っていますか。

図2 - 1



地域における子育て支援への協力意向について、「はい」は67.9%と7割近くを占めている。性別で見ると、「はい」が男性67.4%・女性67.9%と、男女ともほぼ一致している。

図2 - 2 性別 地域の子育て支援についての協力



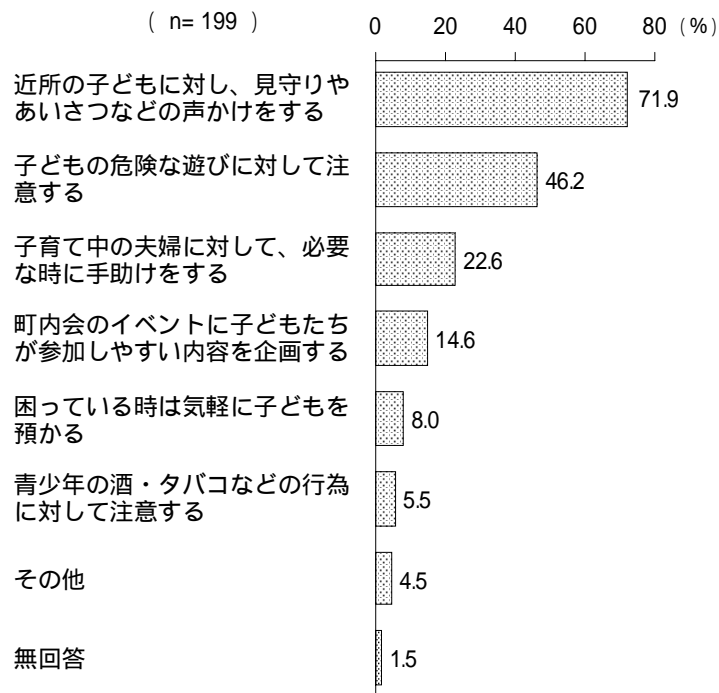
2 - 2 協力できること

(問13で「1 . はい」とお答えの方に)

問13 - 1 地域の子育て支援について協力するとしたら、どのようなことができますか。

(は2つまで)

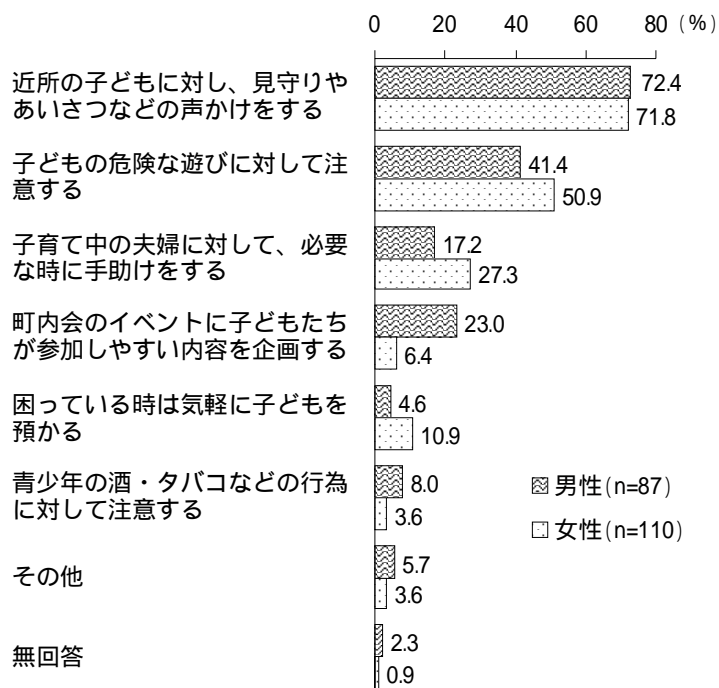
図 2 - 3



協力意向のある人（全体の67.9%）に、その協力内容をきいたところ、「近所の子どもに対し、見守りやあいさつなどの声かけをする」が71.9%で最も多く、これに「子どもの危険な遊びに対して注意する」(46.2%) が次いでいる。

性別で見ると、男性では「町内会のイベントに子どもたちが参加しやすい内容を企画する」が23.0%と、女性（6.4%）を大きく上回っている。一方、女性では「子どもの危険な遊びに対して注意する」が50.9%と過半数を占めている。

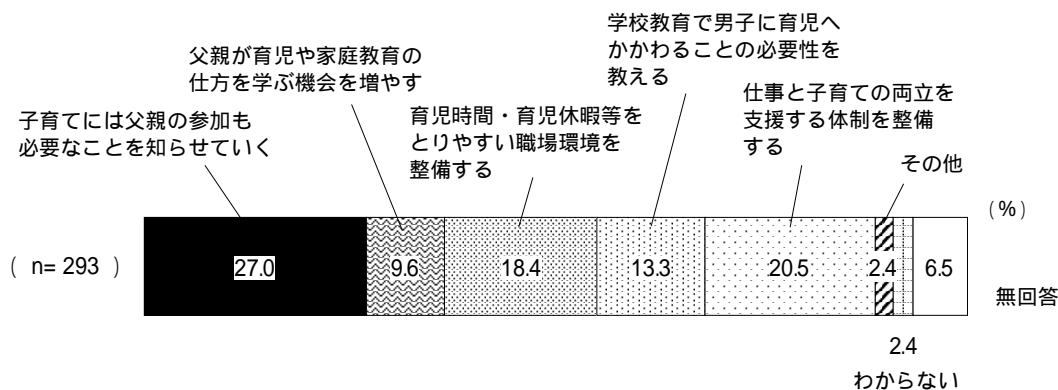
図2 - 4 性別 協力できること



2 - 3 男性の子育て参加に必要なこと

問14 男性が子育てに参加するには、どのような事が必要だとお考えですか。(1つだけ)

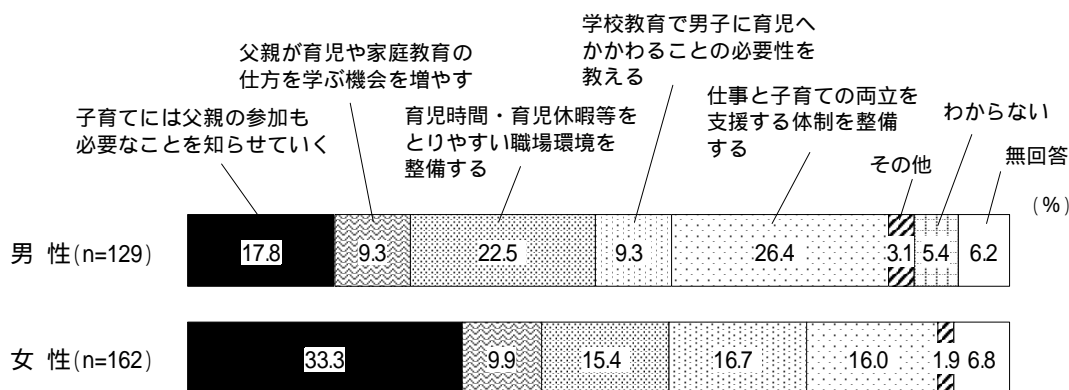
図 2 - 5



男性が子育てに参加するために必要なこととしては、「子育てには父親の参加も必要なことを知らせていく」が27.0%で最も多く、以下「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」(20.5%)、「育児時間・育児休暇等を取りやすい職場環境を整備する」(18.4%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「育児時間・育児休暇等を取りやすい職場環境を整備する」(22.5%)と「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」(26.4%)が女性より多くなっている。一方、女性では「子育てには父親の参加も必要なことを知らせていく」が33.3%と、男性(17.8%)を倍近く上回っている。

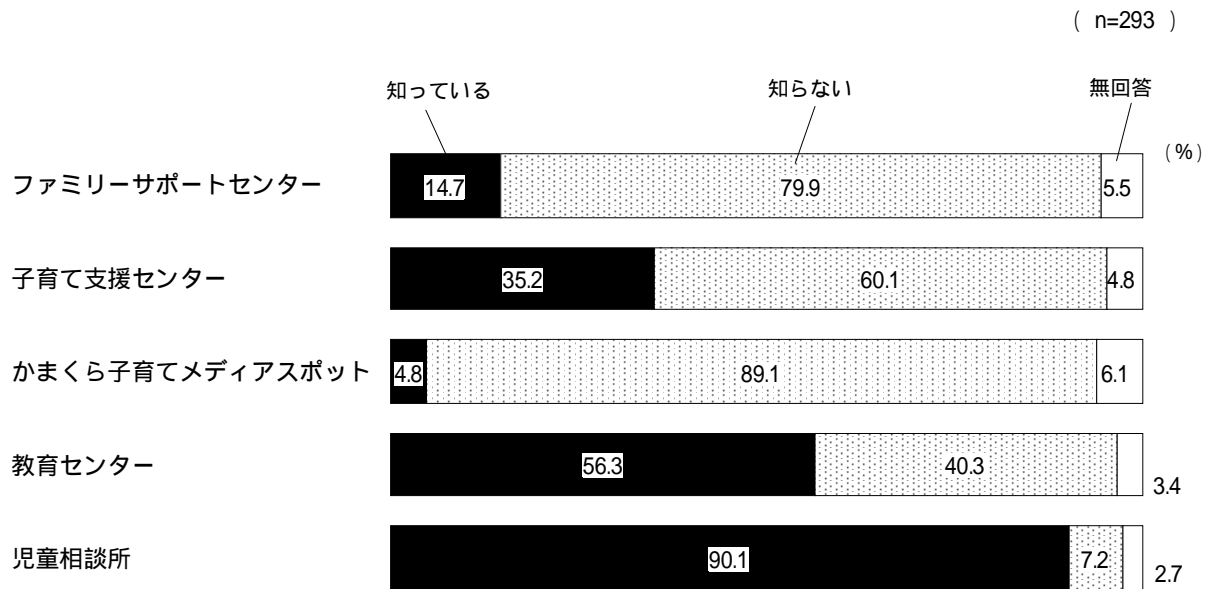
図 2 - 6 性別 男性の子育て参加に必要なこと



2 - 4 子育て相談、支援機関の周知度

問15 次のような子育てに関する相談や支援を行う機関があることを知っていますか。ア～オについてお答えください。(はそれぞれ1つずつ)

図 2 - 7

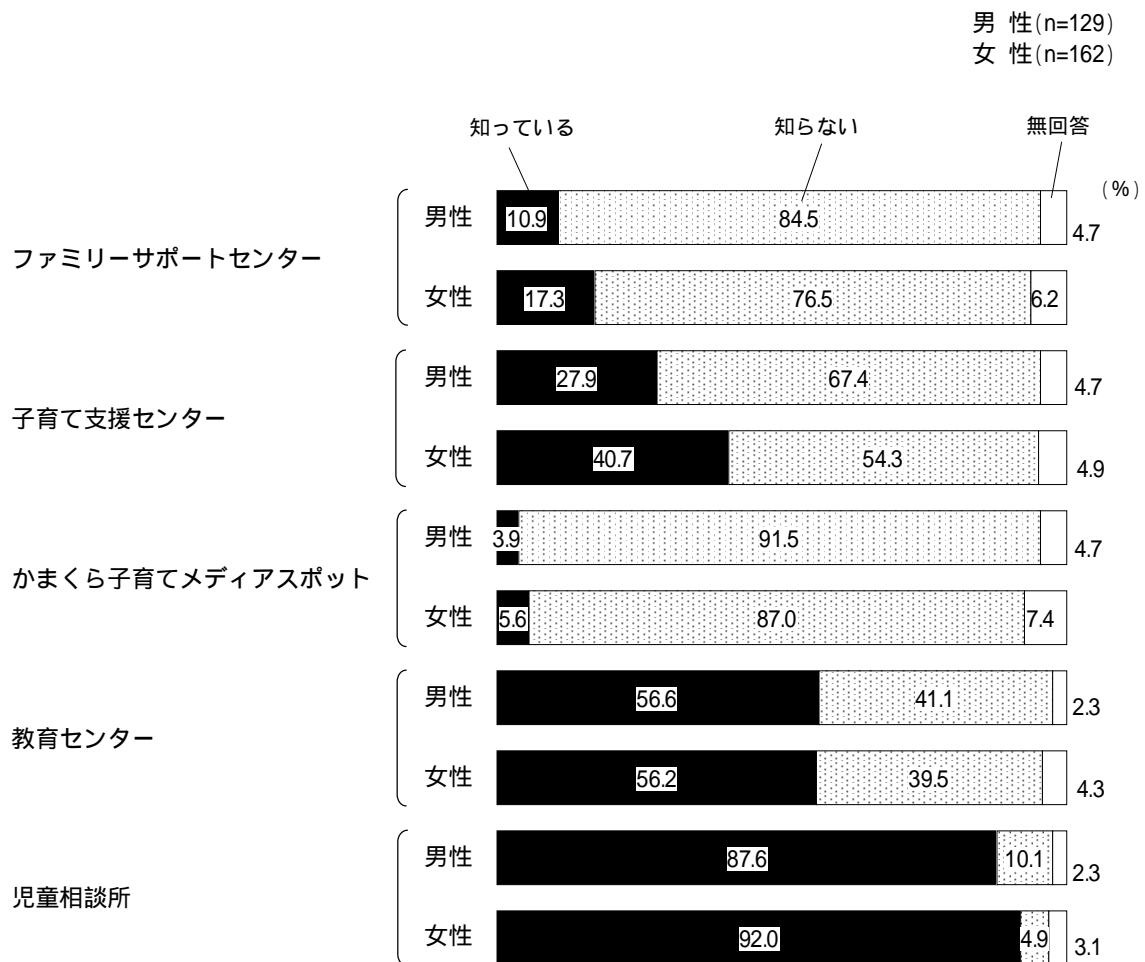


子育てに関する相談や支援を行う機関の認知度をみると、児童相談所 が90.1%で最も多く、以下 教育センター (56.3%)、子育て支援センター (35.2%) の順で続いている。

性別で見ると、児童相談所（男性87.6%・女性92.0%）と教育センター（男性56.6%・女性56.2%）については男女の認知度に大きな差はない。

しかし、子育て支援センターについては、女性で「知っている」が40.7%と、男性（27.9%）を10ポイント以上上回っている。また、女性では、ファミリーサポートセンターについても「知っている」が17.3%と、男性（10.9%）を上回っている。

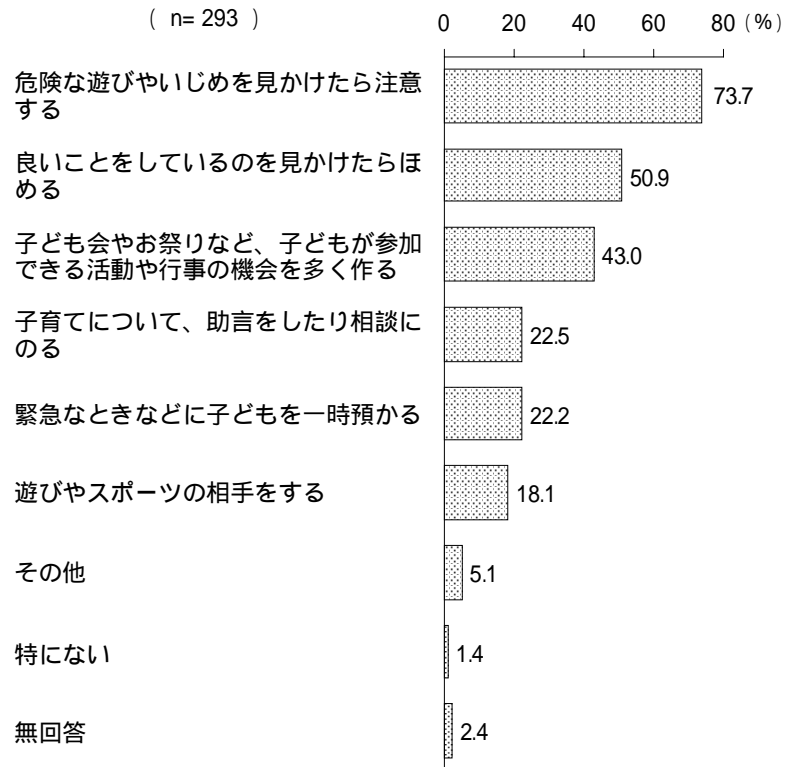
図2 - 8 性別 子育て相談、支援機関の周知度



2 - 5 子育てをする上で、身近な地域の人たちにしてほしいこと

問16 子育てをする上で、身近な地域の人たちは、どのようなことをするのがいいと思いますか。(は3つまで)

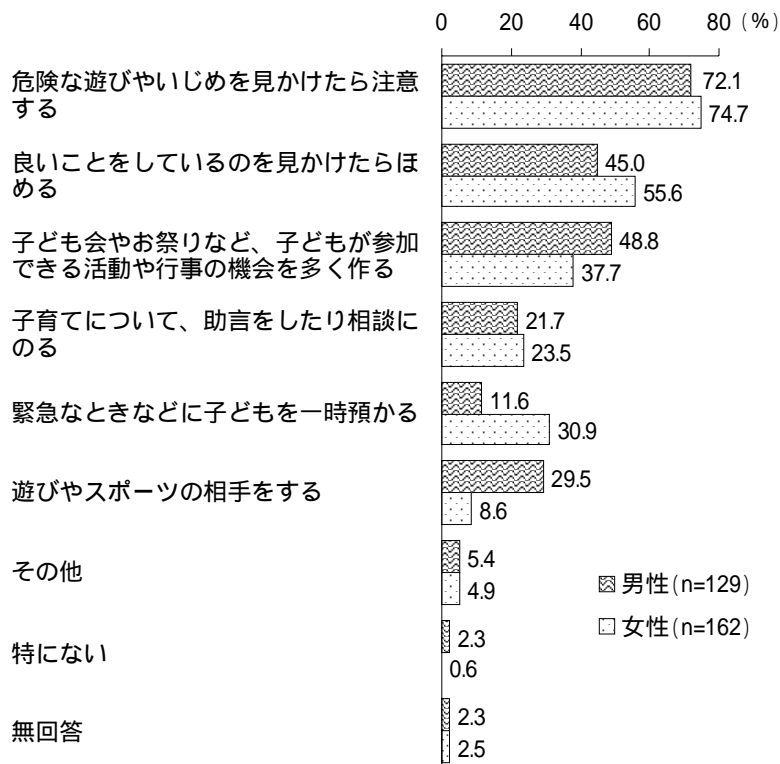
図 2 - 9



子育てをするうえで、身近な地域の人たちがすることについては「危険な遊びやいじめを見かけたら注意する」が73.7%で最も多く、以下「良いことをしているのを見かけたらほめる」(50.9%)、「子ども会やお祭りなど、子どもが参加できる活動や行事の機会を多く作る」(43.0%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「子ども会やお祭りなど、子どもが参加できる活動や行事の機会を多く作る」が48.8%と、女性（37.7%）を10ポイント以上上回っている。一方、女性では「良いことをしているのを見かけたらほめる」（55.6%）と「緊急なときなどに子どもを一時預かる」（30.9%）が、男性に比べて多くなっている。

図2 - 10 性別 子育てをする上で、身近な地域の人たちにしてほしいこと

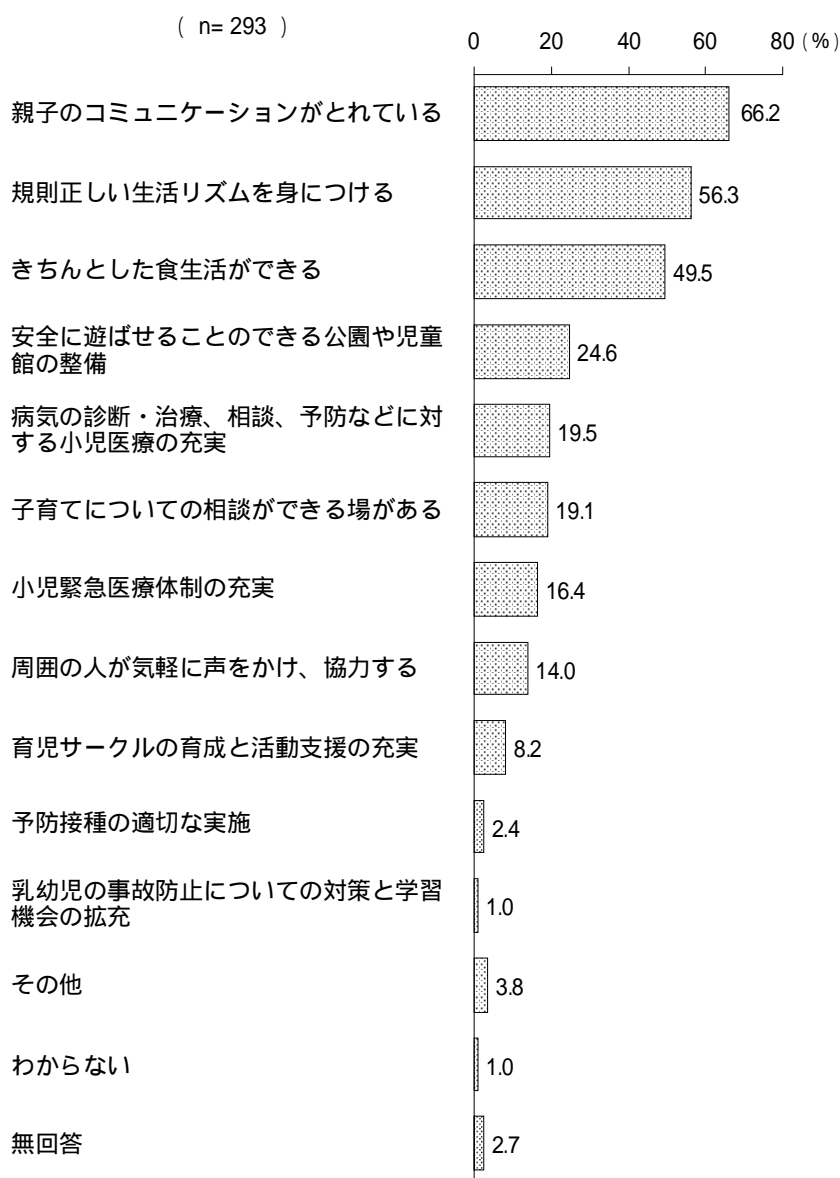


第3章 子どもたちを健やかに育てていくために必要な支援

3 - 1 子どもが健康に育つために大切なこと

問17 子どもが、健康に育つことができるようにするために、どのようなことが大切だと思いますか。(は3つまで)

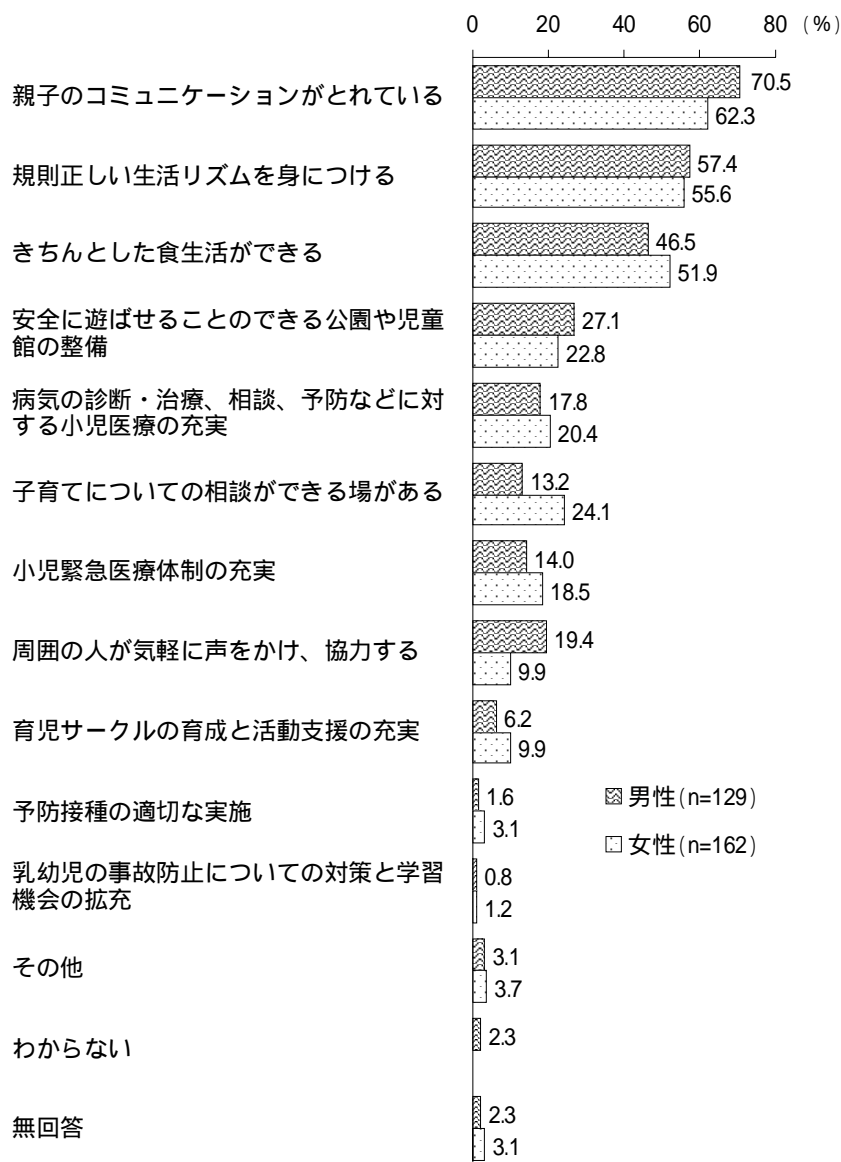
図3 - 1



子どもが健康に育つために必要なこととしては、「親子のコミュニケーションがとれている」が66.2%で最も多く、以下「規則正しい生活リズムを身につける」(56.3%)、「きちんとした食生活ができる」(49.5%)の順で続いている。

性別で見ると、「親子のコミュニケーションがとれている」は男性70.5%・女性62.3%と、男性が多くなっている。一方、「きちんとした食生活ができる」は女性51.9%・男性46.5%と女性が多くなっている。

図3 - 2 性別 子どもが健康に育つために大切なこと



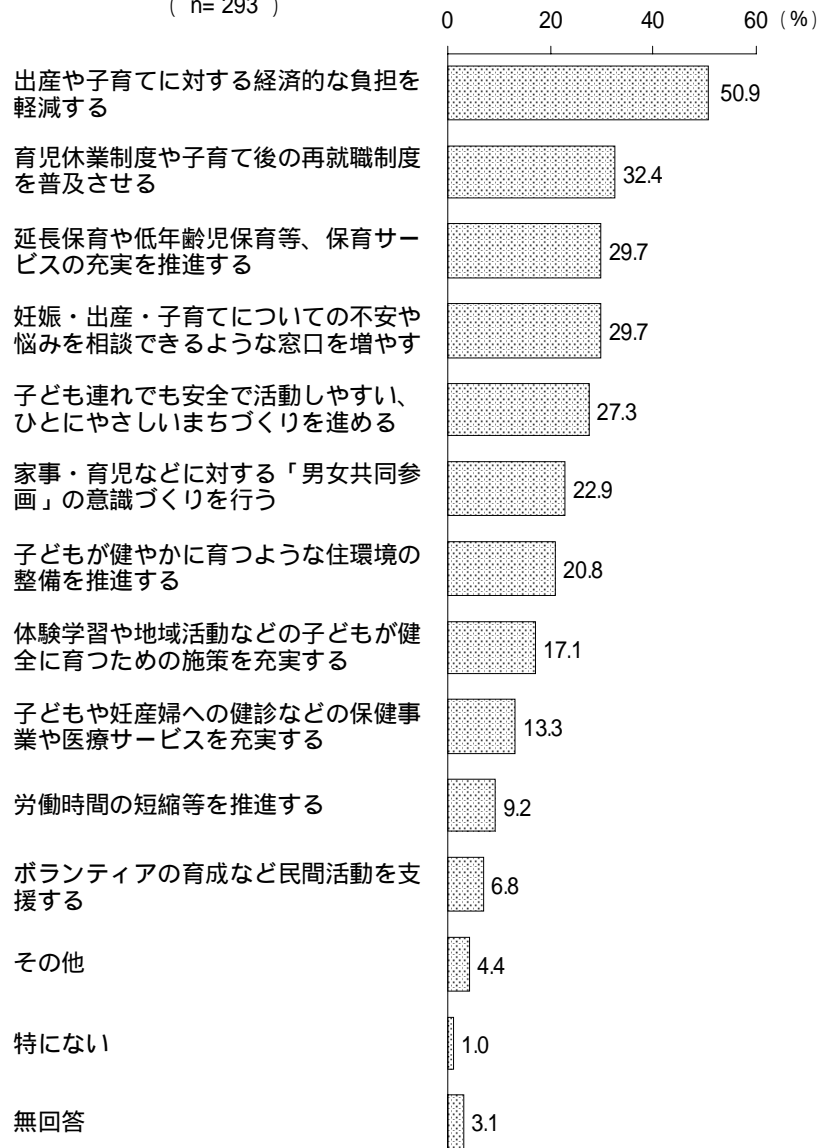
3 - 2 子どもを健やかに生み育てるために必要なこと

問18 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。

(は3つまで)

図 3 - 3

(n= 293)



子どもを健やかに生み育てるために必要なこととしては、「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減する」が50.9%で最も多く、以下「育児休業制度や子育て後の再就職制度の普及させる」(32.4%)、「延長保育や低年齢時保育等、保育サービスの充実を推進する」(29.7%)、「妊娠・出産・子育てについての不安や悩みを相談できるような窓口を増やす」(29.7%)の順で続いている。

性別で見ると、「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減する」は男性で58.1%と、女性（45.1%）を上回っている。一方、女性では「延長保育や低年齢時保育等、保育サービスの充実を推進する」（34.0%）と「妊娠・出産・子育てについての不安や悩みを相談できるような窓口を増やす」（34.6%）と「家事・育児などに対する『男女共同参画』の意識づくりを行う」（28.4%）が、男性より多くなっている。

図3 - 4 性別 子どもを健やかに生み育てるために必要なこと

